第８回望ましい教育環境あり方検討委員会

日　時　　平成２９年６月30日（金）
　　午後６時３０分
場　所　　九戸村役場　第２会議室

次　　第

１　開　　会

２　教育長あいさつ
　　委員長あいさつ

３　協　　議
○　適正配置について
○　小中連携について
○　その他

４　そ の 他

５ 閉　　会

「適正配置・小中連携教育のあり方協議資料」

２９．６．３０（金）

会議録一部抜粋　第７回検討委員会より

委員長

・・・行政と言いますかまちづくり全体の教育も含めたプラニングとのかねあいというのはどうしてもでてきますので、そこをこの委員会でどのあたりまでまとめきれるのかというと、限界があるだろうと思います。それを行政にたいしても配慮しながら今後すすめて欲しいと要望としてだすことができると思うので、・・・・教育委員会だけではすまされない問題がありますので、行政もふくめてどう福利厚生から医療も含めて教育だけで活用できない部分含めてどういうふうにフォローアップするのか、様々な活用方法がありますのでそのあたりを要望とさせていただいて。

委員長

いくつか選択肢があればそれを巡って、ただ我々が考える際に５つの教育課題をどのように克服していくかとひとつの視点もありますので、と同時に基準もありますので。

委員長

・・・スクールバスを活用するという方向性はひとつ見えているわけですが、問題はそのスクールバスも含めて、ということと、あとは先ほどの効果、今回で小中連携一貫を話している部分も具体的な教育効果がはたして上がるか否か、そういうところをもう一度少し資料をだしながら皆さんにお考えいただきたい。それを話したその先に、やはり小中連携一貫としては、一貫が望ましいかな、施設一体型がのぞましいかな、こういうひとつの方向性があると思うんですね。それらも加味しながら、単にスクールバスだけの問題ではありませんので、そして交通手段を考えた上でやはり中学校の近くがよいとなれば、それもひとつの考え、それで合意できればこれは委員会としてはそういうものとして検討もしていくことになります。言うこともあります。そのあたりいかがでしょうか。

第７回検討委員会より

【協議内容　通学安全等】　通学方法（スクールバス通学での課題等）の主な内容

□スクールバスの路線　（小・中路線）
□スクールバス乗車方法（小・中別）
□スクールバス乗車指導等、安全指導の徹底　（乗車場所等）
□登下校に合わせたスクールバスの時間（低学年・小学校・中学校部活動）

【協議内容　小中連携のあり方】小中一貫教育を考慮した一貫教育の効果等の主な内容

□小中一貫教育・連携教育、類型（義務教育学校　併設型小学校・中学校）
□小一貫教育等導入の実態　（全国・県内の状況　施設一体型・施設分離型　教育課程）
□小中一貫教育等の成果と課題　（第５回検討員会協議内容５つの課題に対する成果・課題）
□小中一貫教育の課題（大いに課題が認められる内容　施設一体型・施設分離型）
□小中一貫教育視察校（盛岡西峰学園土淵小・土淵中　秋田市立雄和小・中学校）
■施設分離型の情報提供

【協議内容　学校配置】　配置基準を踏まえた学校配置の方向性の主な内容
□学校配置と小中一貫教育の導入の関連　（施設一体型・施設分離型）
□学校配置の方向性と街つくり構想との関連　（再編後の跡地利用を含）
□学校配置の方向性は、選択肢の中から検討
□学校配置と５つの教育課題の克服と配置基準の関連
■小中連携一貫の教育効果の検討　導入の検討　小中一貫教育施設分離型の情報提供

協議事項

【協議１　小中連携のあり方】
・小中一貫教育を考慮した小中一貫教育の効果等

【協議２　学校配置】
・配置基準を踏まえた学校配置の方向性

普代小学校・普代中学校　分離型小中一貫校

●普代村教育委員会	小中一貫教育の主な内容
小中一貫教育導入の目的	普代村教育委員会では、以下５点を目的に小中一貫教育導入しています。 ①心身の成長への支援－校種を超えた支援必要 ②学力保障－９年間の継続的・系統的な指導 ③自己有用感の育成－クラス替えのない集団の中で、校種を超えた活動 ④児童・生徒の減少の対応－小中共の活動による多様な人間関係つくり ⑤より効果的な「コミュニティスクール」として－地域の活性化
導入の経緯	普代村では、平成２０年から２２年にかけて村内小学校４校（普代小・鳥茂渡小・堀内小・黒崎小）が統合しました。統合を機に、小中一貫教育県教委指定・村教委指定を受け、平成２４－普代システムモデルプランとして研究成果を提案しています。その内容は、 ・小５，６：一部教科担任制・専科制　・小４．５　ＴＴ指導 ・中数２・３年生：数学専科ＴＴ指導 平成２５以降は、中➡小　乗り入れ授業（数学）を実施しています。
修業年限と指導区分	修業年限　小６　中３ですが、指導区分は、義務教育９年間の発達段階に応じて、４－３－２制で取り組んでいます。
今後の方向性	現在、分離型の小中一貫校ですが、平成３２年度、施設一体型小中一貫校開校予定とのことです。その理由として、 ・乗り入れ授業の円滑化を図るため。 ・職員室の機能を強化し、児童生徒の理解を深めるため。 ・小中の教職員が、小中の文化の違いを学び合い指導に生かすため。 ・近い距離にある施設ではあるが、課題もある。その課題解決のため。

小中一貫教育の主な内容　普代小中一貫校　学校経営グランドデザイン等より	
■普代小学校　児童数　１０６名　普通学級６学級　特別支援学級２学級　通級学級１学級 ■普代中学校　生徒数　　６１名　普通学級３学級　特別支援学級２学級 ■隣接に設置されているが、分離型の小中一貫校。（普代小学校・普代中学校間、１００メートルの距離）	
乗り入れ授業 小専科指導	乗り入れ指導や小学校専科は、次のように取り組んでいます。 ・中➡小　全校児童対象（音楽朝会、学習発表会） 小６　算数・音楽・体育　小４，５　音楽・体育 ・小➡中　数学ＴＴ指導 ・小専科指導　理科・書写
教育課程・ 学校行事の合同化	次のような指導区分で発達段階に応じた指導を進めています。また、集団や社会の中で生きていく豊かな人間性の育成のため、小中合同の行事を実施しています。 ・小１～４（基礎の形成）小５～中１（習熟と熟成）中２～３（完成と飛躍） ・合同文化祭　合同避難訓練　合同清掃　合同朝会
成果と課題	次のような成果と課題が考えられます。 ・小中教職員が９年間の成長の姿を共有することができる。 ・小中一貫教育の目的を大切にし、中の教諭は小学校の子どもたちのために先行投資とする考え方で指導する。 ・小中の空き時間の違いがある。小は放課後の時間があるが、中は、放課後は部活動の指導となるため打合せの時間を持ちにくい。 ・教科指導や乗り入れ指導の短い時間で打ち合わせやきめ細かな連絡等が難しい。 ・事前に計画された学校行事、合同朝会等は、子どもたちが、それぞれの学校に移動するが、移動にかかる時間に課題がある。

小中一貫三戸学園　施設一体型・施設分離型

●三戸町教育委員会　　小中一貫教育の主な内容	
○導入の経緯 三戸町の抱える課題	現三戸学園三戸小学校は、平成１６年度（三戸北小・蛇沼小）、平成１８年度（三戸小・目時小）、平成２１年度に（三戸小・三戸北小）が統合しています。小中一貫教育の導入は、次のような課題への対応です。 ・少子化による児童・生徒数の減少　平成１０➡平成２８　４６％減 ・三戸中学校施設の老朽化　３７年経過 ・中１ギャップの顕在化　　不登校生徒、学習意欲や学力の低下
○小中一貫教育で目指す子ども像を、次のように掲げています。 ・夢に向かい学び続ける子（確かな学力） ・ふるさと三戸町に誇りを持ち次代を担う子（豊かな心） ・基本的な生活習慣が身に付いた子（健やかな体）	確かな学力を育むために教育課程特例制度を生かすなど（英語科の導入）、主に次のような取組をしています。 ・英語科（小学校の導入）　・乗り入れ授業　・地域学習
	豊かな心育むために教育課程特例制度を生かすなど（立志科の創設）、主に次のような取組をしています。 ・立志科　・４．３．２制による滑らかな接続　・連携校や異校種との交流
	健やかな体を育むために、主に次のような取組をしています。 ・早寝・早起き運動　・食育教育
○教育課程の特徴	・「立志科」は、ふるさとに誇りを持ち、三戸町の時代を担う児童生徒の育成をねらいとし、「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」を融合した三戸町独自の教育課程特例制度を活用した教科です。 ・「英語科」は、小１から導入し、９年間見通した系統的・継続的な指導を行うために、教育課程特例制度を活用した教科です。 ・発達段階に配慮した４（初等部）・３（中等部）・２（高等部）制により滑らかな接続を図る指導を進めています。また、小中学校間の相互の乗り入れ授業によりきめ細やかな指導や専門性を生かした指導を進めています。
○成果と課題	次のような成果と課題があげられます。 □不登校数の減少（特に７年生（中１）での新規数が減少） □中一ギャップの減少（７年生進級児童の心理的なギャップは大幅に減少） □確かな学力の定着 ■個に応じた不登校の対応 ■教育課程特例に係る国の動向（道徳の教科化と立志科）（教科英語科の新設）

小中一貫三戸学園　三戸小学校・三戸中学校（施設一体型）斗川小学（施設分離型） ■三戸学園　　三戸小学校・三戸中学校　６０５名 （初等部　２３９名　中等部　２０２名　高等部１５４名　特別支援１０名） ■三戸学園　　斗川小学校　　４２名（２７年度）	
○特色ある教育活動	特色ある教育課程の内容は、前述した通りですが、次のような工夫した教育活動に取り組んでいます。 ・小中の合同の運動会では、初等部、中等部、高等部ごとのリレーや初等部２年と高等部９年生が一緒に取組む種目を考えています。 ・中等部５年生から、５０分授業としています。（小は原則４５分間授業です。） ・部活動では、吹奏楽部が小学校高学年と一緒に活動しています。 ・小中一貫特別講師を町独自で採用し、数学・英語のＴＴ指導や生徒指導に取り組んでいます。
○校務分掌の整備（三戸小中）	・初等部・中等部・高等部の三部会制とし、それぞれに教頭を配置しています。また県内初の「通級指導教室」が設置され個に応じたきめ細かな指導・支援が可能となっています。また、特別支援部を新設し、特別支援教育の充実を目指しています。
○斗川小学校	・分離型の斗川小学校では、次期学習指導要領「英語科」に対応するため、モジュール学習を試行導入しています。また、乗り入れ授業、三戸小・中と全学年交流しています。
○成果と課題	・多忙化の解消のために、まず、多忙感を解消するようにし、会議は、効率的に行っています。また、主任会での情報共有を大切にし、小中それぞれで、子どもたちの育ちを認め合うようにします。 ・職員室が一緒であるため、児童生徒の情報交換や小中の指導上の課題等について相談しやすい環境にあります。

教育課題対応と小中一貫教育　　～視察校から学ぶ解決策の方向性～

教育課題　・村の主な対策事業	九戸村の子どもたちの現状	視察校の主な取組み
1　中一のギャップ ・小中関連研修会 ・小中連絡会 ・適応指導相談員配置	不登校生徒の出現率が年々高くなっており出現率は平成２６年度０．６８％、平成２７年度２．７４％、平成２８年度４．６４％となっており、中一での発生が改善されない状況にもあります。 村教委では、不適応相談員、カウンセラーの派遣など人的支援を行っておりますが、不登校の原因が多岐にわたり、その対応は難しくなっています。小から中へ円滑な情報提供や連続した指導が不適応予防につながっており、小中間でその体制作りが必要です。	視察校のほとんどが９年間、長期的・継続的な視点を持ち児童生徒理解と指導に当たっております。また、運動会や文化祭など小中の合同行事を開催し、多様な人間関係つくりを通し、社会性を養っています。 ◇三戸学園では、教委と連携し、中学校入学前ガイダンス事業を実施し、中学校進学時の不安や心理的段差を解消しています。
2　特別支援教育の充実 ・就学支援委員会 ・教育相談 ・特別支援教育支援員配置 （資料ＮＯ７　参照２）	村内５校の８学級の特別支援学級では、１５名の子どもたちが学んでいます。また、特別教育支援員（８名の配置）の支援により普通学級で学ぶ子どもたちもおります、 村教委では、就学前から関係機関と連携し、就学指導を進めています。特に、小中入学時には、保護者と子どもの状況を共有し合い、適切な学校選択がなされるよう支援しています。発達障がい等を抱える児童生徒の指導は、就学前から義務教育終了まで、更に、その後の生活を含めた個別支援が重要となっています。	◇三戸学園では、小中の特別支援担任、スクールカウンセラー、特別支援員の組織により、９年間を見通した指導に当たっています。 ◇盛岡西峰学園では、経営の重点に特別支援教育の充実を掲げ、全教職員による情報の共有と個に応じた指導支援を進めています。
3　学力向上・質の高い授業 ・小中高連携学力向上推進事業 ・授業力向上研修会 ・スクールサポート推進事業 （資料ＮＯ７－３　参照）	小中高連携学力向上推進事業は、学校種間の円滑な指導、学校間同士の落差のない指導、学年間の格差のない指導をねらいとしてはじめ、４年目になり、主に授業改善、小中高一斉の家庭学習期間の設定、学習の基盤となる視写・聴写活動に取り組んでいます。 授業力向上研修会では、小中全教職員（高校希望者）が、大学教授、指導主事の小・中での示範授業を参観し、小中学校の指導事項の系統性や児童生徒の学習状況を理解し、指導力の向上や小中連携した質の高い授業作りと児童生徒の学力向上につながるようにしています。また、スクールサポート推進事業により盛岡大学生を各小中学校に２名程度配置し、児童生徒の学習意欲の向上や潤いある学校生活につなげるようにしています。 学習指導要領の改訂により、学校間の指導事項の系統性を考慮した計画作りや児童生徒の学力の実態に応じたきめ細かな指導、更には、小小間、小中間で共通的な内容による学習規律の確立や基本的学習態度の育成が重要となっています。	視察校全ての学校で、授業公開や小中合同研修会を開催し、指導力や授業力の向上に取り組んでいます。また、全ての学校において、小学校のきめ細かな指導方法や中学校の専門性を生かすために乗り入れ授業を行っています。乗り入れ授業は、教職員の配置や児童生徒の実態、教科の単元等に応じ、各学校の柔軟な計画により、実施しています。 ◇普代小・普代中 小➡中　教務主任による数学のＴＴ指導 中➡小　音楽・体育・算数指導 ◇三戸学園 小➡中　７年生への補助指導 中➡小　５，６年生への指導 ◇雄和小・雄和中 小➡中　　家庭・数学 中➡小　　音楽・数学・理科・体育 ◇盛岡西峰学園 小➡中　　数学ＴＴ指導　理科専科 中➡小　　英語・体育・数学 ◇盛岡西峰学園では、乗り入れ授業のキーワードを「まず行って見て」「できる支援を」「ちょこっとの打合せ」とし取り組

		み、期待される効果を次のように述べています。 小中学校の教員が、互いに協力して、理解の段階に合わせたきめ細かな指導が可能になる。 小学校の児童は、中学校教員の専門性のある指導により学びを深め、中学校生活に期待を膨らませる。 中学校の生徒は、生徒の実態を理解している教員がＴＴに入ることにより、安心して学習に取り組むことができる。
4　教職員間の相互連携 ・小中高連携学力向上推進事業 ・小中関連研修会 ・幼・保・小関連研修会	小学校５校、中学校１校の配置の特性を生かし、上記１，２，３の課題への対応のため小中教職員の情報交換・情報共有に努めており、その場が授業研修会や小中関連研修会(幼・保小関連研修会)、学校行事の参観によるものです。子どもたちの育ちの姿を日常の会話により共有したり、それぞれの指導法の良さを取り入れたりすることが、生徒指導の充実や指導力・授業力の向上につながっています。	小中一貫教育推進は、小学校・中学校の文化の違いによる教職員の意識が鍵となると言われます。視察校では、小中連携して９年間の子どもたちの学びのために、校務分掌を工夫しています。 ◇雄和小学校・雄和中学校では、小・中学一体の学校運営組織を作っています。 ◇三戸学園では、中等部会（５．６．７年生）により、小中の滑らかな接続を図っています。また、上記２で紹介したように、教育支援部により、特別支援教育・生徒指導の充実を図っています。 ◇普代小学校・普代中学校では、普代小中学校一貫教育研究会により「普代小中一貫校　学校経営グランドデザイン」を作成しています。 ◇施設一体型の学校は職員室が小中一緒となり、情報交換しやすい環境です。
5　英語教育の充実 ・外国語補助教員配置 ・ナインズ学習の実施 ・県教委研究協力校　九戸中「英語が好きになる学校づくり事業」 (資料ＮＯ７－４参照)	小学校５，６年生が外国語（英語）に親しむことをねらいとし「外国語活動」を週一時間実施しております。 村教委では、指導の充実を図るため、外国語活動補助員を配置しております。また、小学校６年生は、年間６時間、ナインズ学習として実施し、多くの子どもたちとコミュニケーション能力を高めるようにしています。また、中学校は、岩手県教委「英語が好きになる学校づくり」事業の研究協力校として英語力の向上に取り組んでいます。 次期学習指導要領は、小学校５，６年生が「教科　英語」年間７５時間実施します。今の学習内容に加え、「読むこと」「書くこと」の領域が加わり、中学校の英語の指導領域と同じとなり、小中指導事項の関連や指導の連携が重要となっています。	◇盛岡西峰学園では、中学校英語担当教員が小学校５，６年外国語活動に週２時間程度乗り入れ授業を実施しています。 ◇三戸学園では、教育課程特例「英語科」を１年生から導入し、９年間を見通した系統的・継続的な指導を行っています。１年から４年までは「コミュニケーションに慣れ親しむ」５年から７年までは「コミュニケーション能力を身に付ける」８年、９年は「コミュニケーション能力を活用する」段階とし、学級担任や英語教師とのＴＴ指導を行っています。 ◇斗川小学校では、次期学習指導要領時数増加に対応するため、モジュールによる先行的な取組を行っています。